



畜産大賞表彰式（左から3番目が中村理事長、右隣が鈴木専務）

名実ともに日本一の公共牧場

# 畜産大賞に輝く

社団法人葛巻町畜産開発公社（理事長・中村哲雄町長）の取り組みが、限られた地域資源を最大限に生かし、地域の畜産振興に大きく貢献したとして、岩手県で初めて畜産大賞を受賞しました。

平成十七年度の畜産大賞（社団法人中央畜産会主催）の業績発表と表彰式は二月六日、東京都の虎ノ門パストラルで行われ、公社に表彰状とトロフィー、副賞の二百万円が贈られました。

農業・畜産関係団体などからの推薦または一般公募による事例は、経営部門が九、地域畜産振興部門が二十一、研究開発部門が十八。この中で、公社は地域畜産振興部門の最優秀賞に選ばれ、さらに三部門の最優秀賞の中から最高位の畜産大賞に輝きました。地域資源を最大限に生かし、酪農家に対する支援活動や地域の農業、農村地域の活性化の重要な活動拠点として、東北一の酪農の町に発展させたことによるものです。公社は昭和五十一年、北上山系

開発事業で整備された牧場管理や地域酪農経営の機能分担（ほ育・育成、搾乳、採草）、後継者の育成などを目的として設立されました。現在の管理面積は、一、七七四畝、夏期飼養頭数（肉牛、羊含む）は三千二百五十頭に及びます。

畜産部門のほか、乳製品の製造販売、レストラン・宿泊施設の運営、パン製造、体験学習受け入れなど十四事業を展開しています。酪農教育ファームの役割も担う「くずまき高原牧場」では、平成十六年度一万八千人を超える牧場体験を受け入れました。総収入は約十一億八千五百万円。従業員数は年間平均百十人と町の大きな雇用の場となっています。設立三十周年を経過し、さらなる発展が期待されます。